

平成27年度 第2回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成27年9月18日（金） 午後3：00～5：00

2 場 所 飯山市役所 4階 第2委員会室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 清水岩夫
委員 田中妙子
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員

教育部長	丸山信一
子ども育成課長	常田新司
学校教育係長	丸山真央
学校教育係	高橋健一

5 会議の経過及び発言

1 開 会

2 あいさつ

（足立市長）

今日は第2回の総合教育会議です。それぞれお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今年度は教育大綱を作成していくわけですが、前回、おおまかな項目について意見交換をしていただき、今回、たたき台の案を事務局で用意させていただきました。今日はこの案についてご議論いただきながら作成していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 議 題

1）教育大綱（教育振興基本計画）の策定について

2）その他

上記について、資料1ページから7ページを事務局子ども育成課長より一括説明。

（足立市長）

ただ今事務局から資料説明がありましたが、ご意見等がありましたらお願いいたします。

(長瀬教育長)

7 ページの 4 番、「インクルーシブ教育」というのはどうでしょうか。言葉が一般的ではないような気がするので、「特別支援教育の充実」などの方がわかりやすいのではないのでしょうか。

(清水職務代理)

こういう言葉はあまり使わないですね。

(常田子ども育成課長)

文科省ではこの言葉でやっているそうです。ですが、確かにわかりづらいですね。

(足立市長)

4 ページ(3)のところで、「ICTを使った利便性の高い…」とあるが、「利便性の高い」というと、先生方が板書するよりも具合がいいといった、そういう意味になってしまう。それは少し違うと思う。「ICTの特性を活かした」の方がいいのではないか。また、3 ページに基本目標があつて、1 番目から 5 番目まであります。これは、前の飯山市学校教育計画から引き続きの部分もあるわけですが、この 5 項目でよいのでしょうか。さらに、6 ページの 1 の大項目の中の適正規模については、上から 3 番目でよいのではないのでしょうか。「夢に向かい、たくましく生きる力を育てる」という大項目だから、適正規模の研究という項目は一番下ではないかと思います。

(足立市長)

6 ページの具体的施策等では、この他にもあるのではないかとということで空欄の項目があるんだよね。最後にある進行管理表まではつけませんが。こういうことが計画の一番肝になる部分だと思います。今、地方創生の計画も一生懸命やっているところなんですけど、そこでも全ての項目に目標数値を入れろというわけではなくて、計画に取り組むにあたりどのように取り組んでいくかをしっかり盛り込まなくてはいけなくなっています。そういうものがないと漠然としたものになってしまうので、ある程度実現したい目標を入れて、それを毎年チェックしていくという形で実現性を確保したいなと思っています。まずはその目標がどういうものかについては、これからの会議の中で検討していかなければならないので今日はいろいろ意見を出していただければと思っています。

(長瀬教育長)

清水先生、6 ページ、「ふるさとを知る 地域の自然や…」という大項目の中で、これだけは絶対落とすなといったものがありますか。具体的に挙げていかないと、現場ではなかなか難しいのではないかと思いますので。

(清水職務代理)

具体的に挙げた方がいいのですか。そうすると他の項目も具体的に挙げた方がいいですね。

(丸山教育部長)

具体的に挙げていただきたいと思います。後ほど触れようと思っておりましたが、このたたき台

を校長会や社会教育委員さんとの会議等で中間報告を行い、その中で意見をいただき、整理して、次回の総合教育会議でまた検討して作り上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(清水職務代理)

地域の自然を身につけさせた方がよいということですが、それは学年によって対応が違いますので、項目として挙げてもうまく収まらない感じがしています。また、始めの方から、いくつか気の付いたことを申し上げてよろしいですか。まず、表紙のキャッチフレーズですが、ここへ書かれることは「どういう子ども育てるか、どんな子どもにしたいのか」そういった願いが入るべきだと思いますので、「新幹線とともに」というのは少し違うような気がします。それから、2ページへ行って、「1趣旨」の下3分の1ですが、「…自分が望む道を切り開き、社会に送り出せる環境を創ることが飯山市教育の目指す姿です。」とありますが、「環境を創る」ことが目指す姿なのか、と。環境ではないのではないかと思います。環境を創ることよりも資質や能力をしっかりとつけてやるのが飯山市の目指す姿だと思います。それから、3ページの箇条書きされた項目の記号(◆、●)の違いがわかりづらいと思います。それから、(1)分かる授業の実現、確かな学力向上を進める環境づくりについてですが、やはり環境ではなく、進めるための「指導力の向上」とかの方が収まるかと思いました。また、「対象：小中学生を中心に、幼児から大人まで」なんですが、こういう風に言わなくてもいいのかなと思います。市の教育だから、あってもおかしくないんですけれども。それから4ページへ行って、先ほど市長から「利便性」の話が出ましたが、このことについては私もそう思いました。また、「(1)夢に向かい、自分の道を切り開き、…」の「自分で自由に選択が可能となるだけの資質を身につける…」の部分が引っかかりました。身につけることで自由に選択できるようになるのだと思うので、そのあたりがしっくりこない気がしました。それから6ページへ行って、具体的施策等の覧の上から4つ目「放課後の居場所づくり」についてですが、この項目は学校教育が中心の部分に感じられますので、別の場所に記載した方がよいのではないかと。それと、あいさつ等基本的コミュニケーション能力の育成の「あいさつ」は裏面の5番に「あいさつ運動の推進」が書かれておりますので、あいさつではなくここでは「表現力等」とかそういった内容になるのかなと思いました。それから、2番の「地域を知るふるさと学習プログラムの充実」ではなくて、プログラムを作って実践することが重要だと思いますので、そういう内容にした方がよいと思います。

(長瀬教育長)

家庭教育についての部分が触れられていないと思います。家庭での学習習慣をつけるとか、その部分をどこかにしっかり書いた方がよいと思います。

(田中委員)

3ページの基本目標が5つあるんですが、1から4あたりまでは、どちらかというと小中学生が中心だと思います。5番だと大人など全てが対象かなと思われれます。この5番の中で「社会変化に対応しつつ」と書かれていることがどういうことを言いたいのかわからないというのと、「地域・家庭・学校の連携と協働による社会教育の実践」とありますが、大人が対象だとすると、例えば社会教育の実践というのはどちらかというと上から目線のような感じがして、「生涯学習の充実」

の方がよいような気がします。また、大人が対象だとすると、「地域に学び、…」の中に学校が入ってきているので、対象が子どもではないかととれてしまう。5番で対象を子どもだけではなく大人もと広げるのであれば対象がはっきりするように修正した方がいいかなと思います。それから、6ページへ行って、1番の「夢に向かい…」の柱の具体的施策の「放課後の居場所づくり」の中に「児童クラブ」を入れた方がいいと思います。2番の「ふるさとを知り…」の柱の実現したい目標は、目に見える部分、数値評価のできるものとして考えていくと「ふるさと検定」についてあるとわかりやすいと思います。

（丸山教育部長）

3ページの中段から下の社会教育に関する部分の言葉を寄せ集めて作成しているので違和感があると感じられたんだと思います。以前の計画では、社会教育の部分を中心に、教育全般にわたって作られておりました。それを受け継いだ形になっています。なので、対象がはっきりしないと感じられたのだと思います。もう少し、「社会教育」ではなく「生涯学習」にするとか、文言的には検討の余地があるかと思いますが、そのあたりは社会教育委員さんからも意見をいただいてみたいと思います。

（足立市長）

前からの計画は非常にボリュームが大きく、それをそのまま引き継いでいるのですが、この大綱はできるだけコンパクトにして作成しました。なので、言葉が繋がらないというか、そういった面があるかと思いますが、そもそも教育大綱は社会教育まで謳わないといけないものなのかなと思っています。大まかなのは挙げてもいいと思うんだけど、あまり細かくしない方がいいと思う。

（清水職務代理）

やっぱり、私は、教育委員会のやることだから学校、義務教育中心で行くべきではないかと思います。

（足立市長）

その辺をはっきりした方がいいのかもしれない。社会教育の部分も入れるのであればもう少しわかりやすい方がいいと思う。確かに5番目の柱はわかりづらいと思う。

（長瀬教育長）

これは、生涯学習のことを言っているので、はっきり「生涯学習」と書いてしまった方がいいと思う。大人の生涯学習を盛り込む裏には学習した内容を子どもたちへ還元してほしいという意図があると思う。

（足立市長）

一般的に「環境」という言葉は、前にある計画から引き継いでいるのだと思う。前の計画でいう「環境」と今回記載した「環境」は少し変わってきているのかもしれない。環境という言葉はいろいろな意味があるので。

(清水職務代理)

3 ページの下のところの社会教育関連の部分で、(1)の「社会の変化に対応した学習の基礎を作る」というところも、「基礎的な学力を身につける」というようなことが良いかなと。また、「知育を創る」というものがどういうことなのかわかりづらいかなというのがあります。

(長瀬教育長)

教員の資質向上。先生方の部分については何も書かれていない。それをどうするか。田中先生、どうですか。市で講演会を実施して、先生方にそれに参加してもらって資質向上するなど、最後に入れてありますけど、本当は中でできればと思うのですが。

(田中委員)

それはどこか入れてもいいし、ぜひ入れてほしいです。

(長瀬教育長)

先生方の資質向上のために市独自で講演会やったりするなど。5つの柱の中に入れるかどうかですが、入れるとしたら、1番目の柱で、家庭教育と並んで入れたらどうか。

(常田子ども育成課長)

資質向上については、入れ込むように検討したい。

(清水職務代理)

6 ページの1番のところに、「スポーツ力」「芸術力」という言葉があるのですが。

(足立市長)

「学力、スポーツ力、芸術力」という言葉が、前の計画の中ではありました。この言葉が一般的なのかどうか。ただ、ネットなどで調べると、造語なのかもしれないがあるんですよね。ただ、あまり広まっていないし、馴染まないかな。

(田中委員)

教育現場では使用していない言葉ですね。

(長瀬教育長)

市民が読んだときにわかりやすくということで入れてみたのですが、運動のことを言っているんだから、「運動力」とかな。

(常田子ども育成課長)

この言葉を入れたのは、学力向上と併せて部活動等で、子どもたちが学力だけでなくて他の分野でも育てていくことを考えていった方がいいと思って入れました。

(足立市長)

義務教育でいうとやはりバランスが大事だと思いますが、「学力」と書いておかないと。高校ならまだいいが、義務教育はやっぱり基礎学力をつけさせないと。スポーツ力や芸術力は少し大人になってからでも伸びるから。基礎学力は中学生までにしっかりとつけておかないと。ただ、「スポーツ力」とか「芸術力」という言葉はあまり馴染まないかなと。

(清水職務代理)

「体力」とかね。「学力」と並ぶ言葉とするとそんなのがありますね。「芸術力」を挙げるとすると具体的施策にはどんなことが入るのでしょうか。

(常田子ども育成課長)

いわゆる部活動部分をイメージしています。学校での芸術部分は、授業で行う以外にはやはり部活動かなと。

(田中委員)

こういう時には、「部活」ではなく、「部活動」という表現の方がいいと思います。

(長瀬教育長)

市長、ぜひ、読書活動をぜひ入れたいですね。

(足立市長)

昔は、教室に読んだ本の数の一覧や、図書館で借りた冊数の一覧がありましたね。

(長瀬教育長)

読書活動を具体的な柱の中に入れたいですね。

(常田子ども育成課長)

「たくましく生きる力」の中に「読書習慣付」という形で入れてはあります。

(足立市長)

今はネットなど「断片的」にわかるものが多い。それが正しいかどうかは別ですが、そうではなく、小学校の場合は「体系的」にわかるように。その辺が違うのでそれを一貫してそういう能力を義務教育の間で習慣づけていかないと。

(樋口委員)

今の子どもは新聞を読まない。私は中学校を訪問したときに、環境問題についての授業をしていましたが、どうやって調べたかを聞いたところ「ネットです」と答えていた。訪問した他市町村の中学校は新聞の切り抜きなど新聞を使って学習したものが廊下に貼ってあったりしましたが、飯山市の中学校はほとんどないですね。新聞を読まないのだと思います。新聞を朝から読んでしまうとすごい文書量ですが、やはりあれを読まないことがよくなくて、たぶん親も読んでいない

のではない。やっぱり新聞はきちっと読ませるようにしないといけないかなと思います。今はネットで調べてそれが全てみたいになっていますけどね。わりと無責任に書かれていたりするので。新聞は公になっているものですから、それぞれの立場で責任もって書かれていますので読むようにしないといけないかなと思います。その辺りから改めていかなければいけないと思います。

（西條委員）

「柳沢プログラム」というのはどういうものなのでしょうか。

（常田子ども育成課長）

幼児期における運動プログラムで、幼児から小学校までのものになります。体を動かすことで学習する能力につなげるもので、松本大学柳沢教授が開発したものです。公立保育園ではかなり普及していて、保育士の評価はとても高いと思われます。

（西條委員）

これは、飯山市独自のものなのですか。

（丸山教育部長）

全国的なもので、特に長野県では普及に取り組んでいます。飯山市ではモデルとして比較的早く取り入れています。

（西條委員）

市民は、この名称を知っているのですか。

（常田子ども育成課長）

保護者は知っていると思いますが、一般的には認知されていないかもしれません。確かにこれだけをとりえるとわかりづらいかもしれませんね。

（樋口委員）

保育園を訪問したとき見ましたが、年長さんはすばらしかったです。今まであんなの見たことなかった。跳び箱から逆上がりまでほとんどできていましたね。年長でできるのはすごいですね。

（田中委員）

せっかく保育園の保育士さんが真剣に吸収してあそこまでやっているのだから、小学校に赴任された先生方にはぜひ柳沢プログラムを保育園の実際の状況を参観しながら体験していただくチャンス、まさしく先ほどの「教員の資質向上」の一環としてそういう機会がぜひほしいと思います。

（常田子ども育成課長）

今年も柳沢先生に来ていただいて、今年は常盤保育園でしたが学校の先生方も来ていただいています。

(長瀬教育長)

ただ、そこから先が厳しい。やっている先生はやっているんだが、なかなか。

(田中委員)

まさに保小連携っていう具体的な場面なので進めてほしいですね。

(足立市長)

大綱は全てを羅列しているんだけど、この5～6年のなかで特に重点的なもの、可能性のあるものを書かないと。5年計画だから、進行管理も含めて入れ込んだ方がいいと思う。やはり「基礎学力と体力をつける」というこの二つが大事だと思います。

(長瀬教育長)

体力について、ここには具体的に出してはいませんが、飯山市は中学2年生の女子がとても低い。

(足立市長)

学力もそうだけど、体力がないといけませんね。体力があって健康でないと学力も発揮しようがないですね。スポーツでいい成績を残すとか、そういうことではなくて、身体の発達とかそういう意味で小学校のうちからしっかりやった方がいいですね。

(清水職務代理)

6ページの「夢に向かい…」と書いた時に、今はたまたま3つ項目が書かれているが、ここへ書くべきことは、「基礎学力の向上」とか、「体力の向上」とか、あるいは「教師の指導力向上」とかそういう中身になるのではないかと思います。それが具体的施策で「授業改善」とか、「習熟度別授業」、「家庭学習の充実」、「運動力」とか、そういうふうに書いていけばいいのではないかと思います。

(樋口委員)

今回、具体的施策が挙がっておりますが、これを全部やるのは不可能ですね。では、この中のどれを次年度等でやっていくのか。具体的なものはどこで決めて、誰が管理していくんですか。今年は予算をつけてこれをやりますっていう大綱の先の部分については、誰が決めてどこで検証していくんですか。例えば、「体力の向上」とあるが、そのために何をやるのか。そのところを挙げていかないと。そしてそれをやってみてどうだったのか。それを入れ込んだ方がいいと思うのですが。

(足立市長)

大綱は大まかなものにはなっているが、自分としては、具体的にどうしていくかというのを打ち出していくべきだと思うんだけどどうかな。

(丸山教育部長)

大綱の中に具体的項目を書いたとして、それを実践するのが学校現場だった場合、どうしても調整が必要になります。一定程度は打ち出してもいいとは思いますが、あまりにも具体的すぎると学校現場としてこの5年間の計画では難しいとなるかもしれません。

(長瀬教育長)

飯山市ではこうしたいという方針を校長会を通じて各校長に伝え、それに基づいて年間の重点目標を作成するという形でいきたいと思っています。

(清水職務代理)

結局、この具体策の中に「習熟度別学習」とか「柳沢プログラム」とかってあるけれど、現場では、やる校長先生とやらない校長先生がいるわけですよ。だから、「積極的な活用」とかそういう表現にして、やる、やらないということではなくて、そういうふうに入れてもいいんじゃないかな。

(樋口委員)

具体的にやってみて、その後どうだったかを検証するにあたり家庭、学校、地域とみんなで一緒に考えていただく場が大事だと思います。

(清水職務代理)

教育大綱を作って、市はこういうイメージで取り組むということは良いのですが、学校現場が全てこのとおりやっていくのが必ずしもいいとは思いません。校長はそれぞれの学校の子どもの実態に応じて計画があるのでできるだけ、精一杯取り入れるという形でいいと思います。

(足立市長)

学校単位で考えればそれぞれでよいと思いますが、市としては、学校間で格差ができてしまうのはよくないと思います。だから、目標としては大綱の中で出して、そこを目指してやってもらう形がいいかなと思います。

(清水職務代理)

出来ない部分はあっても仕方ないと思います。ここに書いたものをどうしてもやるとなると学校現場とすると非常に苦しくなると思う。だから、例えばふるさと教育については、「米作りへの積極的な参加」というような文言であったほうが良いと思う。

(足立市長)

市長の立場で言うと、「飯山市に住むと、子どもたちの教育にすごくいい」という市にしたいよね。飯山に来て子育てすると学力も体力もつき、自然の中で人間形成にもとてもいいんだ、ということになればいいと思うので、そういうふうになるよう少しずつでも実現できるようなものをこの中には記載したい。この中案の中にはソフト事業も多いので、やり方によって結果がとても変わってくると思う。

(清水職務代理)

「家庭学習の習慣化、日常的な体力づくり」といった言葉が具体的な施策等に入っていくのかなと思います。

(足立市長)

家庭学習は学年が上がれば上がるほどとても大切だと思います。

(田中委員)

この大綱の作成については、今日の時点では項目をどうするかという話をしていますが、先ほど樋口委員が言われたように、具体的に小中学校でどれとどれをどういう形で実施していくのかということは次回、次々回で決めるということで良いのでしょうか。というのは、従来ですと年度初めの校長会で教育長から重点をお話いただくのですが、学校はその時点では既に年間計画・学校目標は全てできあがっています。4月の時点で重点を言われてもなかなか追加・修正していくことが難しいので、早めにお話してもらった方が良いと思います。

(長瀬教育長)

年度内のできるだけ早い段階で校長に伝えていければと思います。

(樋口委員)

一番考えなければならないのは、飯山市の小中学校は今の状態でよいのかということだと思います。変える必要がないのであれば無理やり何かをやる必要はないと思います。学力的な話や、人数的な話であってもそうですが、一人の親として、決していいとは思っていません。それを今のままでいいと思っている親御さんがどれほどいるのか。少なくとも私の周りにはいろんな意見がいっぱい聞こえてきています。私は少なくとも現状を把握したうえで、できる、できないというのはありますが、明確な目標を掲げて方向を示さないと、言い方は悪いですが知らないうちに人がいなくなっていくと思います。声を上げてくれる方はまだいいのですが、声を上げずに知らないうちにどこかへ行ってしまう人もいます。もう、明確に方向を掲げていかないとダメで、私は悠長なことをいっている時期ではないと思います。ですから、学校の先生と親御さんがどれだけ一緒にやっていきましょうというスタンスがとれるのか、それが全てじゃないかと思います。できるだけそういう場を設けて活発な意見が出るようするというのが一番いいと思います。

(長瀬教育長)

課題は十分承知しています。それも全て課題解決に向けての第一歩だと思います。後はスピードが求められていると思うのですが、当然市長の考えも踏まえながら皆さんの意見を尊重したいと思っています。

(西條委員)

学力や体力作りは大事なことだと思うのですが、体力づくりの中で、「部活動の充実」をあまり表に出すと、朝部活をやめたりしている中で、親の方からすると矛盾しているのではないかと感

じてしまうところがあると思います。部活動ということではなくて、いろいろな意味での体力づくりという意味で捉えてもらえるような表現が良いと思います。新しい部が希望どおりできないなど、不満を持った保護者がいる中で、市として部活動の充実と打ち出すいろいろな意見がきて収集がつかなくなってしまうと思うので。

(長瀬教育長)

事務局、今日はこのくらいでいいか。

(丸山教育部長)

それでは、少し整理させていただきます。大綱の中では基本的な方針や指標の中のうち、重点的なものを一定程度盛り込む形にしたいと思います。今までの教育振興計画重点事業の実施状況で完了している事項と、継続してやっていく事項は先日見ていただきました。こういうものは今まで教育委員会の中で具体的に話されなかった項目だと思います。今後、定例の教育委員会でまた意見をいただいたり進行管理をしていただいたりして、その後定例校長会へも話をしていくという形でどうかと思っております。大綱としては12月までにまとめさせていただいて、樋口委員がおっしゃった、具体的な事業などや懇談会の開催など手法的なものは教育委員さん中心に今後話し合いの中で具体化していけばいいのではないかと思います。この話し合いに市長が毎月出るのは無理だと思いますので、要所要所で総合教育会議を開催できればと思っております。そんな形でよろしいでしょうか。

(長瀬教育長)

一番ポイントは、今までと違って、教育大綱が出来たということは市民に目に見える形で教育行政がわかるということと、結果として飯山の教育は具体的にこう変わってきて市民にわかるような形でやっていかないとこの総合教育会議と教育大綱の意味が半減してしまうので、それを念頭に置いて頂きたいというのが私自身の中にあります。

(足立市長)

総合教育会議の意義は、飯山市の教育の中で何が課題で何をしなければいけないのかということをも市長部局側と教育委員会側両方で認識を同じくして向かっていくことだと思う。具体的に何に取り組んでいけば良いのかを明確にしていくのがこの会議の役割であって、それが学力だとなればそれを伸ばすためにはどうすればいいのか、そう絞って進めていかないといけないと思います。予算をつけないければならないものは、予算をつけていくなどしていければと思います。学校現場で行うことは、校長会を通じて話していったり、県の教育委員会に話さなければならないことは我々も市長会として話していくような形なのかなと思います。家庭にお願いしなくちゃいけないこともあるかもしれないし。方向として出していければと思います。

(丸山部長)

では、よろしいでしょうか。今後はそれぞれの団体さんから意見をお聞きし、整理して重点化する項目を次回詰めていただくということにさせていただきます。中身については、本日いろいろな意見をいただきましたので、その辺りを修正する形で大綱の中身としていくことにさせていただきます。

きたいと思います。

4 その他

次回会議について

日程

課題

事務局丸山教育部長より、次回の日程については、11月半ばぐらいを予定したい旨の説明。

5 閉 会

事務局丸山教育部長より、再度次回11月半ば開催の連絡をし、閉会とした。